



桜とヒヨドリ

老いを楽しむ

住職

老いることを悲しむのではなく楽しむのがよい。過ぎ去った過去を懐かしむことや、余命が少なくなったことを淋しく思う心に区切りをつけるのが一番よい。

「老い」を感じるのは体力の衰えを知るときです。まず足が弱ってきます。足があがっていませんからつまずきやすくなる。階段の上がり降りがつらくなる。

身体の老化現象は、生きている限り避けることのできない現実です。「若いころはよかった」と思いがちですが、「そうなる歳まで生きさせてもらって有り難い」と喜ぶべきことです。「今」より若い時はありません。

高齢者に二つのタイプを見ることが出来ます。

①身体だけでなく心までも老化して、次第に人生が淋しくなるように生きている人と、②年齢を重

ねるごとに精神的に成長して、心が豊かになっていくように生きている人です。この違いは「老いをどう受け止めて生きるか」によっているようです。

京都大学の総長をされた平沢興先生のことばに「人は単に年をとるだけではないけない。どこまでも成長しなければならぬ」というのがあります。

「一度限りの人生」、「やり直しのきかない人生」と言いますが、このことは、一日一日が新しい一日ということとです。自分の人生を日々新たに創作しているのです。人生は自分で創っています。毎日毎日新しい自分です。日々あらたな自分を創る。これからどういう自分ができるのか、これが老いることの楽しみです。

それにはまず、与えられている今日の一日を大事にすることとです。次に今日の一日を振り返り静かに見直してみることとです。見直して欠点を見つけることです。また人生には失敗はありがちです。その時落ち込むばかりではなく、失敗したら落ち込みを早めに切り上げて、振り出しに戻り最初から一から始めることが重要になります。

七十年前の終戦のとき、ロシアのシベリアに抑留され極寒の地で強制労働させられ、凍傷で足を切断された小沢道雄さんという方がおられました。小沢さんはその現状をすぐには受け入れることが出来ず、苦しみぬいた末にたどり着いた世界は、「生まれる時には何の注文もつけずに生まれてきた自分だから、今の自分も、現に今この自分として生まれてきたと受け取ればいい。本日ただ今誕生」という大きな障害を乗り越えて生きぬいていかれました。敬服するばかりです。

また、現代の妙好人の一人にかぞえられる河村とし子先生の姑さんはお念仏を喜ぶ人でした。朝起きると「今日も目が見えてくださる。手が動いてくださる。ありがたい」と仰っておられたそうです。日常の生活の中で、当然のこととして見ることが、当然ではなかったことに気づかされた時にこれまでと違う世界が表れてきます。そのことを教えてくださるのが阿弥陀さまでです。ありがたいことです。「老い」を一緒に楽しみ、お浄土に生まれましょう。

本山念仏奉仕団に参加して

泉井 玲子

仏縁を頂くようになって早や十九年になります。信行寺様で色々御聴聞させて頂く機会に恵まれ心より感謝しています。

平成二十七年十一月九日〜十日にお寺の年間行事のひとつの本山念仏奉仕団に参加させて頂きました。その折、信行寺から同行した小林登志夫さん、渡辺由子さんと三人と一緒に参加十五回目表彰を受けました。これもひとえに信行寺様のお陰であります。報恩感謝の日暮らしてお念仏致しております。

十五年間の念仏奉仕団の思い出の絵巻を繰り広げてみますと、平成十四年に奉仕させていたいただいた時、御影堂の修復で外された一枚一枚の大瓦に心をこめて磨く奉仕は忘れることはありません。

平成二十年には、修復完成した全容を拝見する事

が出来まして感慨無量でした。

お念仏のみ教えを頂く御同胞のお陰で、私もこれから上山して奉仕させて頂きます。

奉仕団で活動していますと、お寺の黄緑色のナツブザックが、とても

評判で『素敵なアイデアですね』『どこのお寺ですか？』と聞かれます。そのように信行寺の名前が津々浦々に届くということは、幸せいっぱいです。

本山の職員の方々のユーモアいっぱいの説明で笑い笑いの楽しい奉仕でした。

心も身体も浄化されました有り難い二日間でした。



泉井さん・小林さん・渡辺さん

信行寺さんにお参りして

新谷一希（中学二年生）

僕は、小さい頃からお墓や仏壇の前に立つと自然に手を合わすということが身につけています。仏教や親鸞聖人のことは良く分らないけれど、心で思い感じることを物心がついた頃からしてきました。

昨年十二月「報恩講」に祖父と一緒に初めて信行寺さんにお参りしました。

信行寺さんから「ほのぼの」の原稿依頼を受けた時は驚いたけれど、少し書いてみたいと思います。

僕が信行寺さんにお参りするきっかけとなったのは、祖父と死後の話をしていたとき「死後の世界は」「人の生まれ変わりは」など、話し合っても答えの出ないことで、とても盛り上がって行きました。数日後祖父が、一度信行寺さんへお参りに行こうと言いました「えっ」と思ったけれど、初めてお寺に行くので不安でもあり楽しみでもありました。お寺に着くと周りは祖父と同じ歳ぐらいの人で

とても不安になったけれど、何事も初めは勉強・勉強と思いました。本堂では多くのお参りの人達とお念仏を称え、ご焼香そして法話で「家族だんらん」のお話がありました。このお参りで色々なことを学び自分や家族を守る、お墓を守ると言う気持ちがとても強くなりました。

新谷 勝（祖父）

孫が法話に興味を持ったのは妻の法要の時、ご住職・副住職から聴かせてもらったお話に惹かれたと思います。また亡き母方の祖父母、父方の祖母三人の思い出を胸に秘め、感謝の気持ちをお守りず、ご先祖を自分が守り続ける覚悟を持つてくれたと思います。



人間の幸せとは何か

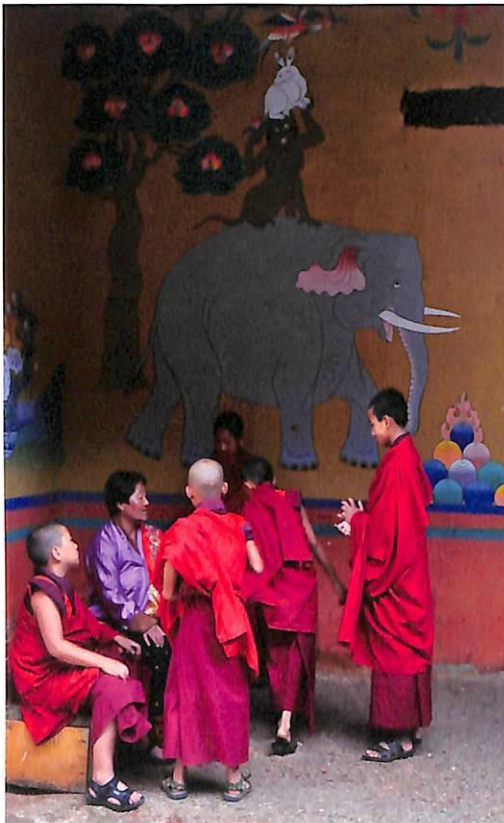
森本 勝

新春初法座のお齋の席で、副住職がブータンに旅行した際の話と写真を披露された。澄み切った空気を思わせる青空が広がる高原の山々と田園風景。国土は、九州とほぼ同じで人口六十数万人の仏教王国である。王様は常に国民の幸せを願い統治され、深く国民の絶対的な信任と尊敬を得ている。王権を辞することを国民に問うた時、国民はこぞって反対したそうである。新興国が施政者に対して暴動による反対運動をしたり、内戦にまで発展していく姿を見る我々には、信じられないような話である。現代社会においては経済の成長率で国を評価するが、ブータンでは人々の幸福度の高さを基本に評価している。それこそが国民の為の施政であろう。

貧しい者、困窮している者に手を差し伸べる、これは戦前の日本にもあった。戦後、経済発展に邁進した結果が現在の姿である。やはり、日本人は物質

的には恵まれたが失ったものも大きかった。貧しい長屋の一隅に身を寄せ合って、生きながらえてきた私達兄弟も、昭和初期の長屋の人達の助けを受けてきた。助ける者も決して裕福ではなかったのに、困窮している人を見過ごすことの出来ない温かい気持ちがあつた時代にはあつたと思う。

温かい人間の営みを懐かしみ憧憬する現代人の寂しい姿を思うにつけ、私達の真の幸せとは何かを深く考えさせられるひと時であつた。



ブータンの僧院

クリスティンの日本体験談

オーストラリアのメルボルン生まれの十六歳のクリスティン・トランさんが二ヶ月間、副住職の家にホームステイしていました。その間は、交換留学生として「須磨の浦高校」の一年生に通学していました。年末年始の信行寺の行事も一緒に参加してきて、門信徒の皆さんとお勤めもしてくれました。彼女の両親、祖父母は、ベトナム人で仏教徒です。メルボルンでもお寺に参るのだそうです。

クリスティン・トラン

私は、日本の文化と漫画が大好きで日本語を三年前から勉強しはじめました。

お世話になった、信行寺はとても大きくて広くてエレベーターがあつて驚きました。また、本堂でのお勤めは、とても心が穏やかになりました。

お正月は、家族揃つてにぎやかで、美味しいおせちやお雑煮を頂きました。本格的な着物も初めて着せてもらいました。とても綺麗でうれしかったです。

日本で好きな所は、回転寿司と一〇〇円ショップとドラッグストアです。

そして日本に暮らして一番感心したことは、日本の人がお互いを敬い、感謝し合っている姿です。

いつかまた、日本にお母さんと来たいと思います。本当に皆さん、ありがとうございました。



美しい着物姿のクリスティンさん（右）
光輪さん（中学二年生）（左）

和服のリフォーム

小林 元子

和服のリフォームを始めたのは、四・五年ほど前に友人の「古布の会」との出会いでした。着られなくなった和服が、リフォームすることでとても素敵な洋服に生まれ変わることに、喜びと達成感を感じています。もう五十着は作ったでしょうか。

作る時に、その着物の柄を活かせるようにあれこれと自分でデザインを考えて、着物を裁つ時が一番楽しいです。意外なことに和服を基本とした仕立ては、一から洋服を作るよりも簡単で、すっきりと仕上がるのです。つつい面白くなって、次々と作るようになってきました。そして何よりも和服のもつ独特な柄や色合いは、現代のプリントの布とは違い味わい深いものです。



和服との一期一会を大切に世界で一枚しかない洋服作りを益々楽しんでいきたいです。



信行寺行事予定とご案内

春の彼岸法要

三月二十六日(土) 羽溪 了先生

* 法話の後、おとぎを「一緒に

二十七日(日) 住職

両日とも午後二時より

第十五回門信徒会総会

四月二十三日(土)

午後二時より

おつとめ、総会、法話

* 門信徒の皆様、一人でも多くの参加
をお待ちしております

はなまつり(お釈迦さまの誕生日)

四月五日(火) 午前十時〜十一時

甘茶・灌仏・献華・献灯

いたやど保育園の園児さん達と一緒に
折り紙やアンパンマンマーチなどを
歌いましょう

* 十一時より本堂で住職の法話があります

信行寺門信徒会会長久納恵弘様が平成二十八年一月二十七日に往生されました。行年七十九歳。

衷心より哀悼の意を表します。

平成二十六年より会長を務め、念仏奉仕団やお寺の法要時の司会など、お世話をしてくださいました。毎月の法座にもかかわらずお参りされて熱心に聴聞されておりました。温厚で誠実な人でした。ただお念仏もうすばかりです。

◎編集後記

今回は、中学二年生の新谷一希君が、おじい様の勝さんと一緒に信行寺の「報恩講」に参られた時の感想文を、そしてオーストラリア出身のクリスティンさん(十六歳)は、交換留学生として来日し、日本文化に触れた時の感想文を寄せてくださいました。

若くても、先祖や家族のことをしっかり考えておられることに感心いたしました。

多田 清子

◎表紙の写真

「桜とヒヨドリ」岡本俊樹さん撮影

里山の実生は七〜八割がヒヨドリのおかげといわれているそうです。緑化の旗手といったところでしょうか。